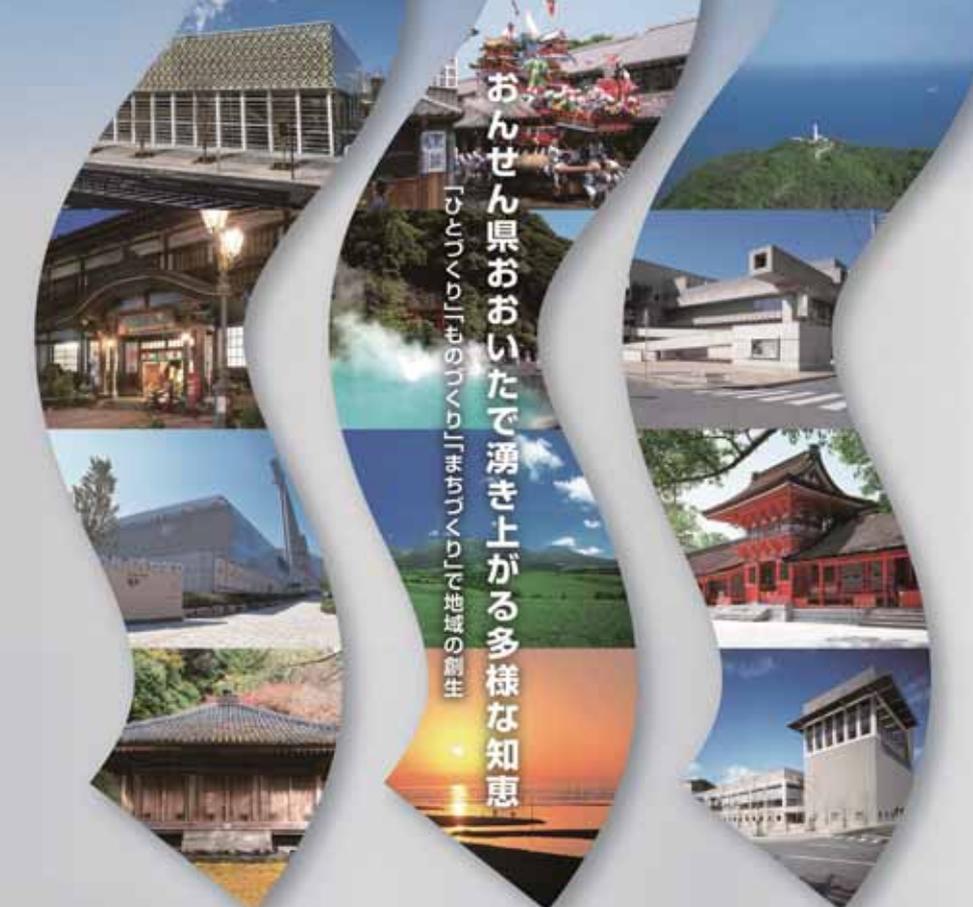


# 特集 第59回建築士会全国大会 大分大会 報告

去る2016年10月22日(土)、「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」で地域の創生 おんせん県おおいたで湧き上がる多様な知恵』をテーマに、第59回建築士会全国大会が大分県別府市で開催された。別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザをメイン会場とし、さまざまなプログラムが組まれた。

温泉県ならではの多様な文化に触れながら、建築士がかかわる地域創生について一人ひとりが考える機会となったのではないだろうか。



おんせん県おおいたで湧き上がる多様な知恵

第59回  
建築士会全国大会「大分大会」

●開催日:2016年10月22日(土) ●会場:別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ  
【主催】公益社団法人 日本建築士会連合会 【共催】建築士会九州ブロック会 【主催】公益社団法人 大分県建築士会

〒870-0045 大分県別府市1丁目3番9号 第59回大会ビル3F  
大会事務局 TEL)097-532-6807 FAX)097-532-6636 URL)http://www.jaia-shikai.or.jp E-mail)info@jaia-shikai.or.jp

# 「第59回建築士会全国大会 大分大会」を終えて

井上正文 第59回建築士会全国大会大分大会 主管県、公益社団法人 大分県建築士会 会長



昨年10月22日、終日の雨の中、第59回建築士会全国大会大分大会が大分県別府市において開催されました。大会開催の約半年前の4月14日以降に断続的に発生した熊本地震により、本大会の開催自体も危ぶまれる事態となりましたが、被災地である熊本への支援と建築技術者としての安全・安心な生活環境への強い関わりが求められていることから本全国大会の実施を決断致しました。このような状況の中、全国から大分の地においていただいたご来賓の方々をはじめ、約3,300名の建築士会会員の皆様に対しまして、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。

今回の大会では、「まちづくり、ものづくり、ひとづくり」を基本コンセプトに据え、地域創生に建築士がどう関わり、どう貢献していくかを大きなテーマとして、企画・準備を進めて参りました。メイン会場の別府ビーコンプラザにおきましては、「木造建築フォーラム」「折り紙建築フォーラム」「足湯でまちづくりフォーラム」の3つのフォーラム、各種多数のセッション、記念講演、式典、大交流会を実施致しました。

また、別会場となった別府市公会堂で開催された全国ヘリテージマネージャー大会では「歴史的建造物の活用推進と法規制」をテーマに活発な議論が展開されました。

さらに翌日のエキスカッションは、5コースを設定して、多くの皆様にご参加いただきました。このような盛りだくさんの行事がすべて滞りなく無事終了致しましたことは、参加の皆様方のご協力・ご支援の賜物と深く感謝しております。

本大会の準備は、3年前の島根大会の頃にスタートさせましたが、歴史・伝統・文化に溢れた石川大会と京都大会に挟まれる形での大分大会はどんな大会をめざすかは私どもにとって、大きな難問で

ありました。この中で結論は、「参加の建築士会会員の皆様には、全国大会を楽しんでもらおう!」でした。これを合言葉に大会の企画・運営を行って参りました。

雨の中とはいえ、屋外での「うまいもの市」はご堪能いただけましたでしょうか。記念式典オープニングの日本文理大学チアリーディング部「BRAVES」のパフォーマンスで、元気・勇気・感動を皆様方にお届けできましたでしょうか。記念講演では、全国的ヒット商品となった「いいちこ」の広報を通じての「文化を大切にしたい」を河北秀也さん、西太郎さんに語っていただきましたが、ご二人の熱い思いを汲み取っていただけましたでしょうか。大交流会では、多彩な大分の味をご堪能いただけましたでしょうか。また、会員の皆様同士の楽しい交流の場となりましたでしょうか。大交流会後は、夜の別府の賑わいや楽しさを感じていただけましたでしょうか。エキスカッションでは大分の歴史・文化・建築を堪能いただけましたでしょうか。

どれもこれも心をこめて準備してきましたが、その中でひとつでも楽しんでいただけたものがあつたのなら、おもてなしの心を抱きつつ準備と当日の対応にあつた大分県建築士会会員一同にとって大きな喜びです。

本大会の準備・運営にご支援・ご協力をいただいたご来賓の方々をはじめとする多くの方々に深く感謝申し上げます。最後に、次回開催されます第60回京都大会の成功、全国の建築士会会員の皆様のご健勝並びに京都大会での皆様方との再会を祈念申し上げます。第59回建築士会全国大会大分大会終了のご挨拶とさせていただきます。



# 大会概要

テーマ

## 「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」で地域の創生 おんせん県おおいたで湧き上がる多様な知恵

期日...平成28年10月22日(土)

会場...別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ(別府市山の手町12-1)  
別府市公会堂(別府市上田の湯町6-37)

主催...公益社団法人 日本建築士会連合会

共催...建築士会九州ブロック会  
(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)

主管...公益社団法人 大分県建築士会

後援...国土交通省、大分県、別府市、大分県市長会

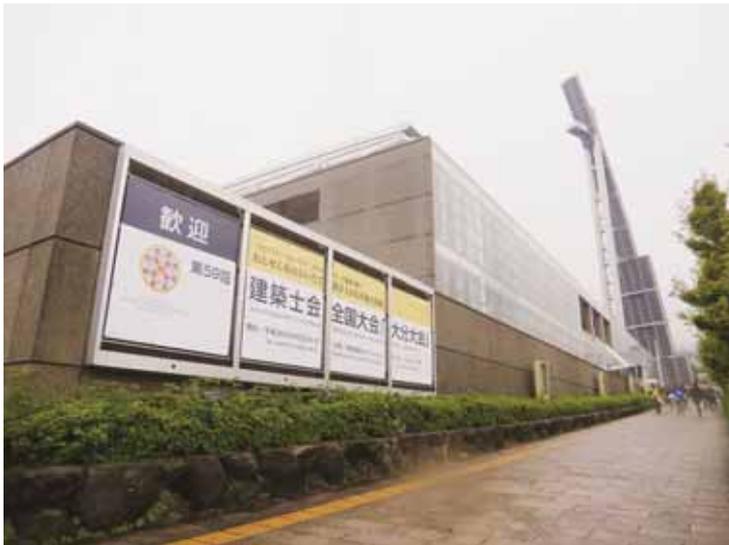


写真1 メイン会場のビーコンプラザ



写真2 続々と集まる参加者たち

大分県は、江戸時代においては8つの藩(中津、杵築、日出、府内、臼杵、佐伯、岡、森)と天領日田、宇佐神宮所領、他藩の飛び地などに分かれ、この小藩分立の歴史的背景から、県内各地には個性的な歴史的町並みと多様な文化が息づき、現在もその名残をとどめています。また、別府市は別府八湯と呼ばれる多様な泉質の温泉群を有し、源泉数と湧出量においては日本一の温泉地であり、近年は大学の誘致により人口に占める外国留学生の割合が全国市区の中で最も高く、国際的にも多様な価値を有する都市です。さらに大分県は、自然公園面積は県土の約3割(全国6位)を占めるほど海・山の豊かな自然に恵まれ、それから授かる食材も豊富です。

このような大分の多様性と建築士会に共通する多様性を大会キーワードにしました。また、大分県が「おんせん県おおいた」をキャッチフレーズとして観光振興に取り組んでいることから、温泉のごとく建築士の知恵が湧き上がり、地域創生の熱心な議論や報告が交わされることを期して大会テーマとしました。

今回は、全国の建築士会から約3,300名の会員および来賓の方々が大会にご参加いただきました。フォーラムやセッション、大会式典、記念講演、地域実践活動での各地の取り組み報告に加えて、あいにくの雨にもかかわらずグルメ屋台「うまいもの市」、足湯など屋外での催しにも大勢の多様な知恵を交えることができた大会となりました。

私たち建築士は、人々がどうしたらもっと幸せになれるか、それを考える立場にあります。自分らしさや個性を大切に現代において、さまざまな多様性を許容しながら建築士の役割を果たしていくことに少しでも有益な大会になったのであれば幸いです。(中原健太郎 / 大分県建築士会)

# 主なスケジュール

平成28年10月21日(金)

全国大会前日(別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ、別府市公会堂)

- 13:30~14:30 記者会見(ビーコンプラザ 小会議室32)
- 15:00~17:00 連合会理事・士会長合同会議(ビーコンプラザ 国際会議場)
- 16:30~20:00 全国建築士フォーラム(ビーコンプラザ リハーサル室、国際会議場)
- 17:00~18:00 全国HMネットワーク協議会総会(別府市公会堂 大ホール)
- 13:30~16:30 まちづくり大賞選考会(ビーコンプラザ 中会議室)

平成28年10月22日(土)

全国大会(別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ、別府市公会堂)

- 8:30~16:00 大会受付(ビーコンプラザ メインエントランスホール)
- 10:00~12:00 全国ヘリテージマネージャー大会(別府市公会堂 大ホール)
- 10:00~12:00 木造建築フォーラム(ビーコンプラザ 国際会議室)
- 10:00~12:00 女性委員会セッション(ビーコンプラザ 中会議室)
- 10:00~12:00 防災まちづくり部会セッション(ビーコンプラザ 小会議室31)
- 10:00~12:00 福祉まちづくり部会セッション(ビーコンプラザ 小会議室32)
- 10:00~12:00 街中(空き家)まちづくり部会セッション(ビーコンプラザ リハーサル室)
- 9:00~12:00 地域実践活動報告(ビーコンプラザ レセプションホール)
- 13:00~14:30 環境部会セッション(ビーコンプラザ 小会議室31)
- 13:00~14:30 情報部会セッション(ビーコンプラザ 中会議室)
- 13:00~14:30 建築相談本部セッション(ビーコンプラザ 小会議室32)
- 13:00~14:30 歴史まちづくり部会セッション(ビーコンプラザ 国際会議室)
- 13:00~14:30 記念講演会(ビーコンプラザ フィルハーモニアホール)
- 9:00~16:00 折り紙建築フォーラム(ビーコンプラザ フィルハーモニアホール前)
- 10:00~15:00 足湯でまちづくりフォーラム(ビーコンプラザ 芝広場)
- 15:00~17:00 大会式典(ビーコンプラザ コンベンションホール)
- 17:30~19:00 大交流会(ビーコンプラザ コンベンションホール)
- 9:30~16:00 情報発信セッション(パネル展示)
- 9:00~16:00 企業出展ブース(地元企業、BIM/CADなど)

平成28年10月23日(日)

地域交流見学会(エクスカージョン)

- Aコース 歴史と平和を考える 宇佐神宮・戦争遺跡を巡る旅
- Bコース 杵築の町並みと1300年の歴史先達・天台宗住職と巡る  
国東半島 特別参拝ツアー
- Cコース おおいた建築巡礼 ~巨匠達の名建築~
- Dコース 別府の温泉文化と歴史遺産めぐり
- Eコース 静寂な山荘と湯の坪街道の秋を巡り湯布院のまちづくりのビジョンを学ぶ



参加者で賑わうメイン会場のエントランスホール



記者会見



別府市公会堂(HM会場)



企業展示



屋外広場



まちづくり大賞選考会



折り紙建築フォーラム



うまいもの市



HMパネル展示



理事会(士会長合同会議)



木造建築フォーラム資料と木製うちわのお土産

# 大会式典



写真1 日本建築士会連合会会長三井所清典氏による主催者挨拶



写真2 日本建築士会連合会副会長岡本森廣氏(左) 大分県建築士会会長井上正文氏(右)による大会宣言

式典には、セレモニーとしての厳粛さに加え、華やかなイベントとしての側面があります。今回の大会では司会進行を大分県日田市出身の現役TBSアナウンサー江藤愛氏が務め、オープニングには全国大会14連勝という大記録を持つ日本文理大学チアリーディング部「BRAVES」による若さが弾けるパフォーマンスが行われました。また、会場は地元の竹職人による竹オブジェが飾られ、大分らしさが演出されました。

大分県建築士会副会長幸勝美氏による力強い開会宣言の後、大分県建築士会会長井上正文氏より歓迎の挨拶がありました。県立芸術文化短期大学松本利則氏による荘重な国歌独唱の後、この1年間に逝去された会員329名の方々に追悼し参加者全員で黙祷しました。

次に日本建築士会連合会会長三井所清典氏による主催者挨拶があり、来賓として、国土交通省大臣官房審議官の伊藤明子氏が国土交通大臣石井啓一氏の祝辞を読み上げられました。また、大分県知事広瀬勝貞氏からの歓迎の挨拶では、建築士にしかできない仕事に知恵を絞って対応できるように

有意義な大会への期待、また別府市長長野恭紘氏からは災害に対する自助共助公序の取り組みの中で建築士が担う役割についての期待が述べられました。

その後、ご臨席の来賓の紹介、祝電披露があり、本大会に3,172名(当日登録受付を含めると3,223名)の建築士会会員の方々が参加されているとの報告がなされました。

表彰式では、功労者連合会会長表彰107名を代表して大分県建築士会の板井登喜夫氏が、伝統的技術者表彰27名を代表して大分県から生野徹二氏が、連合会賞表彰6名を代表して大阪府建築士会の大谷弘明氏が、それぞれ表彰状を授与されました。さらに、連合会まちづくり賞表彰、地域実践活動表彰が行われました。

その後、日本建築士会連合会副会長岡本森廣氏、大分県建築士会会長井上正文氏より、本大会の宣言が発表されました。

- 官民で連携し、震災復興を推進する
- 技術研鑽に努め、社会の多様な要求に応える
- 会員の獲得に努める

最後に、大会旗が大分県から京都府へと

引き継がれ、京都府建築士会会長衛藤照夫氏および京都府建築士会の方々による次期開催地の挨拶とアピールが行われ、大分県建築士会副会長幸勝美氏による閉会挨拶にて式典の幕を閉じました。

(近藤正一 / 大分県建築士会)

会場... 別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ コンベンションホール

日時... 平成28年10月22日(土)  
15:00 ~ 17:00

参加者... 3,223名



写真5 功労者連合会会長表彰



写真3 日本文理大学チアリーディング部「BRAVES」によるオープニングパフォーマンス



写真4 地元の竹職人による竹オブジェが配された式典会場



写真6 京都府建築士会の方々



# 記念講演

演題

## どうしたらもっと幸せになれるか、 それを考えるのがデザイン

講師

河北秀也 氏 アートディレクター

西 太一郎 氏 三和酒類株式会社 取締役名誉会長



写真1 会場風景

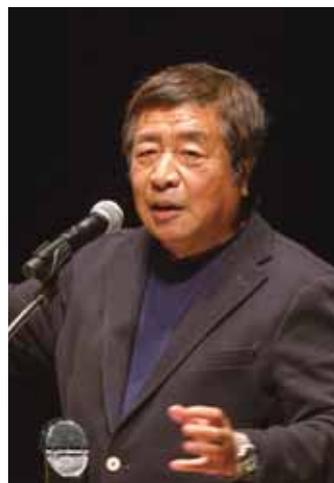


写真2 河北秀也氏

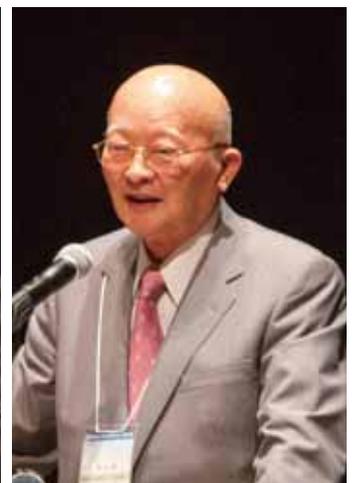


写真3 西 太一郎氏

河北秀也氏は福岡県久留米市出身で、旧営団地下鉄のマナーポスターなど、想像力を刺激し、見る人に働きかけるような素晴らしい作品を生み出しているデザイナーであり、1983年から三和酒類株式会社の本格焼酎「いいちこ」の企画デザインを手がけられています。

また、西太一郎氏は大分県宇佐市出身で、1960年に地元の三和酒類株式会社に入社、2009年より現職の取締役名誉会長に就き、現在でも「いいちこを世界の酒に！」を合言葉に、営業マンの一員として、全国各地を飛び回っておられます。

記念講演では、冒頭、河北氏より「いいちこ」の広告を手がけるようになった経緯から話されました。当時のデザイナーには「一業種一社」という鉄則がある中で広告宣伝の仕事を引き受け、宣伝の方向性を一発勝負の「点」ではなく、継続性のある「線」とする約束をしたとのことでした。

その「線」で考える宣伝として最初に手がけたのが、費用のかからないポスターであり、そ

れを継続することでシンボル効果が出てくると話されました。これまでにデザインされたポスターを中心に紹介され、「いいちこ」の世界観を表現するためのポスター制作に関し、河北氏が追及したものは「原点回帰」であり、その風景を国内で探したところ、現在の日本には至るところに、無粋な人工工作物等が氾濫していたことから、海外にこれを求めたとのことでした。これについては、われわれ建築士にも責任の一端があると厳しい指摘もありましたが、自然を大切にすること、デザインの本質を取り入れることが、人が幸せになることとの条件であることを示唆されました。

続いて、西氏の講演では、河北氏への信頼を深めた話を中心に紹介されました。河北氏には、三和酒類株式会社の基本理念である「品質第一」には「イメージ」も含まれると教わったとのことであり、焼酎の「品質」とポスターでつくる「イメージ」、このバランスのよい両輪が必要であると認識させられたそうです。

また、あるときに河北氏に「いいちこのライ

バルはどこか」と聞かれ、西氏が日本の酒造メーカーを挙げて答えると、「ライバルはベンツ・BMW・トヨタ」と正されたとのこと。この本質は「自動車を運転するときは、絶対に『いいちこ(お酒)』は飲むことはできない」という考えからであり、一日24時間中の時間の取り合いが、これからの「ものづくり」において重要な点であると話されて結びとなりました。

「いいちこ」をつくる西氏と「買ってくれる人」をつくる河北氏のそれぞれの視点からいただきました「ものづくりとデザイン」についての講演は、われわれ建築関係者の新たな発想・あり方にもつながる貴重なものとなりました。

(藤澤隆介 / 大分県建築士会)

会場...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ フィルハーモニアホール

日時...平成28年10月22日(土)  
13:00~14:30

参加者...1,484名

# 交流セッション

## 大分県建築士会主管セッション

### 折り紙建築フォーラム

大分県建築士会では、折り紙建築を通じて「ものづくり」の喜びを実感してもらい、建築に興味を持ってもらうことを期待し、2001年から継続的に折り紙建築教室を開催してきました。各支部が地元の小中学校や公民館のほか産業祭などに出向き、子どものみならず幅広い世代を対象としてその活動を長期的に行ってきたことで成果を得ています。また、大分県内の建築物のオリジナルの折り紙建築の開発も行ってきました。身近な建物を題材にすることによって、より親しみやすくなるように工夫しています。

折り紙建築フォーラムでは、これまでの大分県建築士会の取り組みをパネル展示とオリジナル作品の展示により紹介するとともに、実際に体験してもらうコーナーを設け、オリジナルの折り紙建築をつくってもらいました。中には作品をつくるのに没頭された参加者もいらっしゃいました。今回は、オリジナル作品の

中から選抜した「大分県立美術館」「富貴寺大堂」「大分銀行赤レンガ館」の3作品、この全国大会用に新たに開発した「竹瓦温泉」「別府市公会堂」の2作品の合計5作品の台紙を用意し、現地で作る時間のない方にはお土産として持って帰ってもらいました。

約300人がフォーラムに参加していただき、大分県の取り組みやオリジナル作品に興味や共感を持っていただきました。この折り紙建築の取り組みが今回のフォーラムを通して全国に広がりを見せ、多くの子どもたちが建築に興味を持つようになってくれることを祈るとともに、大分県でも引き続き活動の継続と発展を図っていきたく考えています。

(籠田真一郎 / 大分県建築士会)

会場...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ フィルハーモニアホール前

日時...平成28年10月22日(土)  
9:00~16:00

参加者...約300名

### 木造建築フォーラム

「地域で立ち上げるこれからの木造建築」と題し開催された木造建築フォーラム。環境問題や日本の森林資源の活用など木造建築には大きな期待が寄せられ、その関心の高さは220名を超える参加者で立席が出るほどになり、フォーラムはレポートしきれないほどの濃密な2時間となりました。

第一部は腰原幹雄氏(東京大学生産技術研究所教授)に「日本の森林状況と地域の都市型木造の可能性」についてお話をいただきました。木材の生産地域と消費地域は比例関係にはなく、いかに「地産地消」として消費地域に生産地域が営業をできるかが大切であるという話を切り口に、間伐材と主伐材の関係性、歴史性における木のイメージの払拭、木の個性を活かした多様性のある都市型木造建築などの講話をいただき、地方からの先端的な都市型木造の発信に、未来の可能性を示唆していただきました。

第二部は、稲山正弘氏(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)、原田浩司氏(木構造振興(株)客員研究員)、山代悟氏(建築家)によるパネルディスカッション。それぞれの活動発表を行い、はじめにコーディネーターの腰原氏より「建築士会にとっての木造建築とは何か?」という問いかけがありました。会場内でさまざまな想いが廻った一瞬だったように思います。稲山氏からは自身の活動を通し、地域材のみならず地域の製材などの可能性について、原田氏からは山に繋がる経済行為について、山代氏からは木造建築には地域におけるベストバランスがありアジアに向けた発信の可能性が示され、他にもさまざまな議論が深く広く展開されました。

最後に腰原氏より、「個別解の建築活動は個人でもよいが、近未来に向けた社会活動こそ建築士会のような団体が行うべきではない



写真1 折り紙建築フォーラムの体験コーナー



だろうか?』という投げかけがありました。会場にお越しになった皆様が大きな課題を各地域に持ち帰り、それぞれの地域での今後の展開に繋げてもらえれば幸いです。

(伊藤憲吾 / 大分県建築士会)

会場...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ 国際会議室

日時...平成28年10月22日(土)  
10:00~12:00

参加者...221名

## 足湯で まちづくりフォーラム

温泉のまち別府で開催の全国大会ということで、全国からの参加者に足湯をふるまい、併せて別府や温泉にちなんだまちづくりの取り組みを4名の講師からお話をいただきました。源泉かけながしの仮設足湯を使用し、ブースの間仕切りには熊本地震の避難所で使用した坂茂建築設計の避難所用間仕切りシステムを再利用しました。当日はあいにくの雨模様で、屋外ブースであったにも関わらず155名の参加をいただきました。

講師 小林直揮氏(株)TAMAYA

今回会場でも使用した仮設足湯を、2016年4月の熊本地震時に避難所に設置したボランティア活動について、被災現場でしか知り得ない貴重な体験談を聞くことができました。

講師 山出淳也氏(特定非営利活動法人  
BEPPU PROJECT 代表理事)

BEPPU PROJECTでの活動を通して、アートとまち・ひとをつなぐスキームについて海外の事例なども引き合いに出しながら、アートとは世界共通の言語であるという言葉が非常に印象的でした。



写真2 木造建築フォーラム講演風景



講師 恒松栖氏(国指定重要民俗文化財 別府明礬温泉湯の花製造技術保存会 顧問)  
別府市明礬地区の湯の花小屋の歴史や成り立ちについて、明礬の生産から湯の花の生産への変遷の歴史や、湯の花小屋の構造など、幅広く語っていただき、別府の伝統産業である湯の花についての知見を深めることができました。

講師 栗生はるか氏(東京建築士会)

文京建築会ユースの活動である「東京銭湯」について、年々その数を減らす銭湯に対して、映画の製作や建物の記録などの活動を通して新しい価値を見出すことの大切さについて学ぶことができました。

(首藤顕道 / 大分県建築士会)



写真3 足湯でまちづくりフォーラム会場風景

会場...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ 芝広場

日時...平成28年10月22日(土)  
10:00~15:00

参加者...155名

# 交流セッション 連合会関係セッション

## 女性委員会セッション 和室の魅力を次世代に引き継ぐ

女性委員会は、2016年7月に平成28年度第26回全国女性建築士連絡協議会を奈良で開催した。テーマを「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」として、岐阜大学渡辺光雄名誉教授の基調講演、和室アンケート調査、パネルディスカッションが行われたことを報告した（詳しくは会誌2017年1月号と連合会ホームページ参照）

次のパネルディスカッションでは、3名のパネラーに発表していただき、日本の暮らしのあり方について議論を深めた。はじめに、伝統的和室の考察として、茶室と職場と住居の併設の中で粋を楽しむ町家について、奈良の実例をもとに、茶道口の太鼓貼り襖や塗りまわし、風炉先窓や連子窓、台目構の床、大和天井や引手指物等の意匠や素材の空間が紹介された。続いて、富山の砺波平野に広がる散居村の地域性を活かした住まいの紹介。アズマダチは広い敷地に切妻屋根、東向きに妻入りで建つ。アズマダチの精神を継承しつ

つ現代の暮らしに合わせ工夫された建築事例が紹介された。

最後に、現代の住まいに和の要素を取り入れた設計事例の紹介。格子戸や障子、引戸の間仕切り、リビング続きの和室、小上がり和室のフレキシブルな使われ方、床座の書斎等、現代のライフスタイルに和の空間を取り入れる可能性が示された。

意見交換では、「伝統的和室」や「次世代に引き継ぐ和室の魅力」などについて話し合い、豊かに暮らすことや愛着が次の世代につながる、和室の気持ちよさ、季節の使い方・暮らし方を取り入れたい、などの意見が交わされた。全国の女性会員からの和の空間事例も紹介された。

今後も建築士として和の魅力を伝えていく必要性を再認識したセッションであった。

（小野全子 / 日本建築士会連合会 女性委員長）

日時...平成28年10月22日(土)  
10:00~12:00

場所...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ 中会議室

参加者...55名

## 防災まちづくり部会 セッション

### 災害多発時代にどう向き合うか

災害発生時の復旧復興には平常時から地域との「普段付き合い」や「事前の備え」が必要である。セッション前半は、そのような取り組みの事例報告を行い、後半はさらに内容を深めるパネル討論が行われた。

事例報告では4名から発表があり、徳島県建築士会の矢部副会長からは、避難施設の応急危険度判定の協定締結や、普段使いできる避難施設の提案、津波浸水により水没する地区の震災前過疎防止をめざした住宅地計画コンベンなどが報告された。

和歌山県建築士会の中西副会長からは、応急木造仮設住宅の設計検討を行い、規模18坪二戸一（施工費1,400万円前後）を提案したことや、応急木造仮設住宅の建設に関する協定締結などが報告された。

日本建築士会連合会の山中副会長からは、熊本県と応急仮設住宅の建設に関する協定を締結し、木造仮設建設に協力していることや、自立再建住宅展示事業へ協力し、規模20坪、販売価格960万円にてエントリーしたことなどが報告された。

熊本県建築士会の廣田常務理事からは、熊本地震の概要説明と、震災後の熊本県建築士会の活動として、応急危険度判定・被災歴史的建造物調査・住宅相談・罹災証明調査・応急仮設住宅への対応・くまもと型復旧住宅への取り組みなどが報告された。



写真1 女性委員会セッション



写真2 防災まちづくり部会セッション



パネル討論では、防災まちづくり部会の佐藤部会長が進行役を務め、パネリスト(上記報告者)や参加者の意見を聞きながら、木造仮設住宅のニーズや建設可能な棟数、本設を意識した仮設住宅、罹災証明の課題などについて討論が行われた。

最後に佐藤部会長より、セッションの内容を地元へ持ち帰りご協議いただき、単位士会でも防災的なグループをつくり、その活動を連合会へフィードバックいただきたいと述べ、セッションを締めくくった。

(針ヶ谷拓己 / 日本建築士会連合会まちづくり委員、北海道建築士会)

日時...平成28年10月22日(土)  
10:00~12:00

場所...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ 小会議室31

参加者...80名

## 福祉まちづくり部会 セッション

「福祉まち部会」の発足に向けて  
その方向性を探る

福祉まちづくり部会セッションは「『福祉まち部会』の発足に向けてその方向性を探る」というテーマで満員の会場で行われた。

最初に、昨今の社会状況から2つの方向性、やさしい建築や都市のまちづくり、高齢者などのやさしい住まいづくり、が確認さ

れた。続いて全国士会から、の分野として田中隆一さん(島根士会)の分野として大竹雅之さん(宮城士会)、平野啓子さん(長崎士会)、小野澤裕子さん(東京士会)、下川滝美さん(岐阜士会)から、地域での地道な活動報告をいただいた。

最後に、5名の報告者と山中保教日本建築士会連合会副会長を交え、トークセッションを行った。活動報告を聞いての「現状の思いや問題点」「各建築士会に向けてお勤めの活動提案」「今後の進むべき目標」など会場参加者からの活発な発言も交え、盛り上がりのある討論会となった。

これまで連合会では各建築士会のこの分野の活動に関して統括することがなかったが、これを契機に各建築士会の「福まち活動」を情報や交流でつなぎ、各地での活発化とともに全国的な動きになることを期待されるセッションとなった。

司会の坪倉菜水さん(連合会まちづくり委員、島根士会)、建築士会事務局には大変お世話になりました。セッション前夜の関係者との事前打ち合わせと懇談などで過ごした和気あいあいの時間のような繋がりが全国に広がることを期待しています。

(中村正則 / 福祉まちづくり部会、徳島県建築士会)

日時...平成28年10月22日(土)  
10:00~12:00

場所...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ 小会議室32

参加者...22名

## なか 街中(空き家)まちづくり部会 セッション

最初に、森崎まちづくり委員長からセッションの主旨説明後、A.空き家部会の活動報告、B.空き家活用街づくり事例報告、C.クロストーク、の3点についてプログラムが進められた。

A.空き家部会の活動報告では、奈良士会の米村氏から「建築士会共通の空き家標準カルテ」「維持保全サービス標準」「建築士が所有者等に適切な管理や活用方をアドバイスする「相談・診断・助言マニュアル」について、森崎委員長から「人材育成講座カリキュラム(案)」の説明が行われた。

B.空き家活用街づくり事例報告では、最初に才本氏から丹波篠山丸山地区での古民家再生で、山とまちの面的活用におけるソーシャルビジネスをめざした事例を紹介。丸山地区は12戸の民家のうち7戸が空き家であったが、その中の3棟の協力が得られ、日本の暮らしてできる宿として再生を行った。その活動において、古民家の面的活用には丁寧に地域と関わり、ローコストで一定基準以上のレベルを確保することが大切であると報告。

2例目は市原氏的那古野下町衆空き店舗対策プロジェクト。空き店舗の有効活用を考えたおられるオーナーと新規に開業を考える事業主の双方の橋渡しを行う「家主と借主のマッチング」「出店者と地域の融合」「空き店舗活用の立案」「店舗の維持、改善の提案」「地域活性の店舗誘致」が主な事業内容。考え方は、長くここで商売してくれる人を選び、



写真3 福祉まちづくり部会セッション



写真4 街中(空き家)まちづくり部会セッション

誘致するよりも誘致した店を辞めさせない。家賃を安く、辞めたい人には経営のアドバイスを行っている」と報告。

C.クロストークでは、大阪士会の田中氏がインスペクションによる性能確認の報告と、報告者5人によるテーマ「規制緩和」「マッチング」「業務として、事業として成り立つ?」「空き家活用の改修手法」についての討議が行われた。(徳田義弘/街中まちづくり部会委員)

日時...平成28年10月22日(土)  
10:00~12:00

場所...別府国際コンベンションセンター  
ピーコンプラザ リハーサル室

参加者...127名

## 青年委員会セッション 地域実践活動報告

青年委員会セッションとして実施する地域実践活動報告では、全国47単位士会の活動の中から各ブロック青年建築士が推薦する秀逸な活動事例を紹介しました。また、日頃の活動を、発表者や全国の仲間たちと語り合いながら、活動のさらなる発展、波及、研鑽、相互理解などの可能性を探るべく、ワークショップ形式の参加型テーブルディスカッションを行いました。さらに、参加者の皆様にはアワード選考にもご協力いただき、最優秀賞、優秀賞を大会式典にて表彰させていただきました。

今回の青年委員会セッションへの参加が皆様の活動と建築士会活性化に向けた次の一歩となることを期待しております。

### 活動事例紹介

北海道ブロック(函館)

工藤 誠「木で遊ぼう! マイはし作り体験」

東北ブロック(青森)

稲見公介「建築体験ウォッチ」

関東甲信越ブロック(長野【優秀賞】)

辻井俊恵「建築の未来へ 今、私たちが  
できることから」

東海北陸ブロック(愛知)

今泉善教「はがきdeコンペ」

近畿ブロック(京都【最優秀賞】)

筑下隆司「『路地』と『小路』の銘板取り付け」

中四国ブロック(高知)

武政正樹「空き家対策調査 問題解決の  
足がかりとして」

九州ブロック(大分)

後藤好信「まちに飛び出せ 公務員建築士」

総評(安田和人青年委員長)

地域実践活動は、建築士会周知の最も重要な活動と考えています。各ブロックとも地域性、特色を活かし、「地域のため、建築士会のため」に日頃から検討を重ね、この場で発表されました。青年委員会セッションに参加された皆様は、今回の発表をお聞きになり、どのように感じられたでしょうか。本セッションに参加して終わりではなく、このように全国各地でさまざまな活動が行われている青年女性建築士の皆様がいるということをも認識し

ていただき、これまでに行われている活動のもう一つ先をめざして、今後の活動に活かしていただけると幸いです。

地域実践活動の先には、これから建築をめざす子どもたちや学生、まちをよくしようと考える地域の方々がおられます。私たち建築士は、そういった方々の思いを汲み、道しるべとなるようなお手伝いを行うことも役目だと感じています。これからの建築士と建築士会の発展のため、さらなる活動の飛躍を祈念しております。

(樋渡裕輔/日本建築士会連合会 青年副委員長)

日時...平成28年10月22日(土)  
9:00~12:00

場所...別府国際コンベンションセンター  
ピーコンプラザ レセプションホール

参加者...282名

## 歴史まちづくり部会 セッション

大分大会で初めて開催されました「歴史まちづくり部会セッション」には、300名定員の会場にほぼ満員という多数の皆様のご参加をいただきました。短時間設定の当セッションは、各ブロックからご紹介いただいた歴史まちづくり活動のうち、3事例をライブ紹介、4事例を資料にてご紹介し、その後ライブ紹介者とともにミニ歴史まちトークという形で進められました。



写真5 青年委員会セッション



写真6 歴史まちづくり部会セッション



ライブ紹介

奈良県

今井町の歴史的町並みの保存活用

広島県

町並み景観&歴史的建造物を蘇らせるプロジェクト

大分県

城下町白杵での町並み景観の維持保存・再生に向けたまちづくり

資料紹介

北海道

江別市旧ヒダ工場利活用ワークショップ

山形県

歴史(武家屋敷・町家)を活かした町並み造り・景観形成

群馬県

中之条町六合赤岩重要伝統的建造物群保存地の現況調査

静岡県

次郎長生家の保全・活用を図り、港まち清水の活性化をめざす

奇しくもライブ紹介の3活動は、前日開催された「まちづくり大賞」の選考会にて、最優秀賞・優秀賞に輝いた活動ということで、大変タイムリーで有意義なものとなったことと思います。また今回は、全国で推進されている歴史まちづくり活動のさらなる進展と、同様の活動に関わる同士の連携を深めるきっかけとなることを期待しての初のセッションと捉えました。

つきましては、日々の活動状況が互いに情報交換できるように、試みとして「歴史まちづくり部会(建築士会)」という公開のFBグループ

を立ち上げました。すでに全国から多くの仲間が集いつつありますので、ご関係の方やご興味のある多くの皆様の参画をお願い致します。

今回のセッションはビデオ記録を撮っております。ご希望の方は郵送実費でお届け致しますので、ご紹介のFBグループに参画いただき、「ビデオ希望」とご連絡下さい。

(松竹昭彦 / 歴史まちづくり部会部会長)

日時...平成 28 年 10 月 22 日(土)  
13:00 ~ 14:30

場所...別府国際コンベンションセンター  
ピーコンプラザ 国際会議室

参加者... 296 名

## 情報部会セッション 建築士のBIM活用

「リノベーションとBIM 活用と成果」

コンピューターで仮想の建物モデルをつくりながら設計を進める手法であるBIM(ビルディング・インフォメーション・モデリング)欧米では7割を超える建築士が活用していると言われ、日本でも大手のゼネコンや組織設計事務所を中心に2009年頃から普及が始まっている。

情報部会では、島根、福島、石川の全国大会においてさまざまな切り口でBIMについて考えてきた。今回大分大会でも178人の参加者があり、会員の業務改善のニーズに「BIMの活用」が大きなテーマになっているこ

とがうかがえる。

最初に、情報部会長でもある大石佳知氏(岐阜士会)がBIMの概念や点群スキャナを用いたBIM活用事例について基調講演を行った。たとえば点群(ポイントクラウド)によって現況建物を立体的に測定し現況調査に役立て、環境解析機能によって省エネ改修の効果事前に把握できる。BIMを使い始めるかどうか悩むのではなく、新技術を積極的に活用する時代になっていると説いた。

パネリストの田上圭一氏(高知士会)は2DCADだけで伝えることの難しさの解消にBIMがあることや、高知県中土佐町における新庁舎建設基本設計委託BIMプロポーザルの紹介、地形データを活用した風シミュレーションの話を、原口広氏(福岡士会)は工務店建築士の立場でGoogle Earthと連動したバスや住宅基礎の鉄筋加工のBIMデータを積算に活用している事例に触れた。

コーディネーターの中田充謙氏(長野士会)は、建築の市場は新築からリノベーション(リフォーム)へ大きく転換が図られ、われわれ建築士の業務はインスペクション(住宅検査)や改修にかかわる業務が増加している。改修設計や工事においても新築と同様にBIMを活用できるとまとめた。

(田中克之 / 情報部会、大阪府建築士会)

日時...平成 28 年 10 月 22 日(土)  
13:00 ~ 14:30

場所...別府国際コンベンションセンター  
ピーコンプラザ 中会議室

参加者... 180 名



写真7 情報部会セッション



写真8 環境部会セッション

## 環境部会セッション 地域型住宅・省エネガイドラインについて考える

このセッションにあたっては、先に国交省から気候風土型住宅認定のガイドラインと解説が公表されており、今後各地域の特定行政庁での認定指針の策定が進められることになる。

日本建築士会連合会環境部会の中村勉部会長の挨拶のあとに、国、建築士、行政の立場より報告が行われた。

最初に国土交通省住宅局住宅生産課建築環境企画室山下英和室長から「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律における国の施策と各地域の特定行政庁の気候風土適応住宅の認定に関する助言」と題し、日本の実現可能な削減目標の設定に向けての省エネの必要性の上で気候風土適応住宅の認定に関する国交省の支援についての報告がされた。

次に実務者の立場から、熊本地震の復興のなかで熊本県建築士会調査研究委員会の梅田彰委員長より「熊本県における気候風土適応住宅に向けて」と題し、熊本の地域特性を活かした建築的な性能の評価方法の検討のセミナーの紹介と、その上に行政に政策提言をしていく予定との報告がされた。

策定作業が最も進んでいる京都市の取り

組みについては、住宅政策課岡田圭司課長より「京都市平成京町家の気候風土適応住宅について」と題し、京都市平成の京町家の紹介と、平成の京町家の認定基準をベースとして気候風土適応住宅認定指針を策定していく予定という報告があった。

その後のパネルディスカッションでは短い時間のなかで、参加者から質問を受けた後に中村部会長から、今から始めなければ2020年に間に合わないという発言があり、山下室長からは各地での認定指針策定への期待、京都市の岡田課長からは気候風土適応住宅の認定にはハードルがある、梅田氏からは建築士会での熊本の気候風土適応住宅のおとしどころの模索、などの発言があった。

参加者がこのセッションを機会に地元に戻って、今後全国の単位建築士会でその地域の気候と風土に適した住宅の知恵を出し、議論の上、行政と連携を進め、行政の認定指針の策定の支援をしていく道筋づくりのスタートと、そのために環境部会としてサポートしていくことを改めて思った。

(篠 節子 / 環境部会副部会長)

日時...平成28年10月22日(土)  
13:00~14:30

場所...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ 小会議室31

参加者...112名

## 建築相談本部会 セッション

建築相談本部会のセッションは、午後1時から2時半まで行われ、第1部として最初の15分間は「建築士の建築相談のあり方」をテーマに、建築相談本部会主査が基調講演を行いました。講演内容は、建築士会における建築相談の5つの柱と、今後各建築士会で相談活動を行う場合の対処方法や注意点についてお話ししました。

第2部は、建築士4名、弁護士1名のパネルディスカッション方式で行いました。「面接相談と裁判所の建築調停」をテーマに4つの題材を取り上げ、建築士会における建築相談体制づくり、建築トラブル予防法、建築調停の瑕疵一覧表と追加工事一覧表、

建築トラブル相談 雨漏り・ひび割れ等、追加工事の順番を進めました。

建築士会における建築相談と裁判所で行われる建築訴訟や建築調停の違い、建築相談委員会や相談委員はどのように活動していったらよいかという視点に立ち、現地相談と現地調査の注意点や裁判所の瑕疵一覧表の性質や扱い方について解説しました。全国大会のセッションという意気込みから題材も多く、駆け足の進行となりましたが、トラブル予防法や雨漏り現象についての題材は、充実した議論ができたという印象でした。

最後の質問時間には、弁護士と建築士の連携に関するものや補修工事の見積書作成方法に関する質問があり、その回答を行い終了となりました。セッション参加定員は70名で、申し込みから除外された会員の方もいらしたようでした。結果としては、当日の参加者は定員の半分といった状況でしたが、熱のこもったパネルディスカッションが行え、今後の建築相談本部会の方向性も考えられるよい機会となりました。

(増沢幸尋 / 建築相談本部会主査)

日時...平成28年10月22日(土)  
13:00~14:30

場所...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ 小会議室32

参加者...45名



写真9 建築相談本部会セッション



# 大交流会



写真1 盛況な会場風景



写真2 別府の文化とも言えるジャズの演奏



写真3 大分県ならではの料理が参加者をもてなした

ジャズの演奏が流れる中、大交流会のオープニングです。

いつもは別府の夜に華やいでいる選りすぐった60名のコンパニオンさんが、全国から集まった会員の皆さんを華やかにお出迎えし、テーブルには、大分名物「とり天」から揚げや地魚のすし桶などが盛りだくさん。見ただけで食欲をそそられたのではないのでしょうか。

井上会長の軽快な挨拶とともに乾杯へ。まずは、大人ムードな「トリオ+1」のボーカルミックスジャズ演奏が参加者の皆さんを魅了します。戦後、別府には米軍が12年間駐留し、別府のいたるところでジャズが流れていました。ジャズは別府の文化として根づいてきたと言っても過言ではありません。3曲15分という短い時間ながら、別府のジャズ文化を堪能できたのではないのでしょうか。

そして、司会進行のスーパーMC岩崎朋美

さんが繰り広げる「突撃インタビュー」。カメラマンを従えて全国の皆さんにインタビューを行いました。地区ブロック別に配置したテーブルをくまなく巡り、インタビューされた皆様には感慨深いものになったのではないのでしょうか。

今回の大交流会にあたって、特に料理は心配りをしました。大会テーマに掲げている大分県の多様性を意識して地域性をアピールしました。たとえば、buffet料理には国東山香仔猪の丸焼き、佐伯蒲江大ひらめの姿煮、緋扇貝、姫さざえの浜煮などが中央コンコースを飾りました。会場両サイドには大分郷土料理実演コーナーとして、別府冷麺、あつ飯、ごまだしうどんなど多数の郷土料理が所狭しと居並びました。ご賞味された皆様方の満足げな顔がうれしい限りです。

いよいよ、会も終盤になり、次回開催県

京都府建築士会の熱い熱いアピールが心を打ちます。しかもかなり大きな着ぐるみまで……、これはもう、次回は必ず京都へ行かなければなりません。

最後に幸全国大会実行委員長が締めめの挨拶を滞りなく行い、1時間30分という短い時間ではありましたが、別府繁華街に素早く移行し(?) 大交流会は参加者全員が感動のもとに終了しました。

(浅野健治 / 大分県建築士会)

日時...平成28年10月22日(土)  
17:30~19:00

場所...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ コンベンションホール

参加者...918名

# 地域交流見学会(エクスカージョン)

地域交流見学会の企画にあたっては、おもてなしの精神で大分の魅力をご紹介することを第一に考えました。しかし、日帰り日程の制約もあり、県南地方や県西部地方のすばらしいところをご紹介できなかったのが残念です。また、単なる観光ではなく少しでも建築士会会員の皆様のご期待に添えるように配慮しました。多少は行き届きのこともあったかと思いますが、おおむね満足いただけたのではないのでしょうか。

## A コース

### 歴史と平和を考える

#### 宇佐神宮・戦争遺跡を巡る旅

参加者...15名

予報通り、朝から小雨の降る中での開催となりましたが、無事に別府北浜に全員集合となり出発しました。安心院葡萄酒工房では簡単な工房の見学とワインの試飲を楽しんでいただきましたが、建物の外壁の仕上げを写真に納め、「これを参考にしよう」と興味を持たれた方もいました。

次の目的地、宇佐神宮では現地ボランティアガイドさんの案内での参拝となりました。宇

佐神宮の参道には長い階段があり、ご年配の女性の方に昇降用モノレールでの本殿参拝をお勧めし、ウェルカムメンバーにその場所まで車で送迎をお願いしました。神宮の方から「建築士会の方々ですから特別に」と、さらに奥へと案内され、八幡造りなどの説明をいただくことができ、皆さん興味津々で聞き入り、感激していたことを思い出します。

昼食は、団子汁とから揚げを頂戴し、次の目的地、城井一号掩体壕でも現地ボランティアガイドさんに案内をしていただき、集合写真も撮影しました。ここにある戦争遺構掩体壕や特攻隊の名簿などに皆さん深い関心を持ち見学されていたことを肌で感じました。質問もここが一番多かったように思います。

そして最終見学地、平和資料館へ。ゼロ戦と桜花の模型、豊の国宇佐市塾が収集した映像など、口数少なく食い入るように見入っていたことが印象に残っています。

ご協力いただいた宇佐市観光ボランティアガイド・熊埜御堂豊子様、豊の国宇佐市塾塾生・鹿瀬島元子様ありがとうございました。

(光井 智 / 大分県建築士会)

## B コース

### 杵築の町並みと1300年の歴史先達・天台宗住職と巡る国東半島 特別参拝ツアー

参加者...69名

大分駅と別府トキワ前で集合していただきバスに搭乗。最初に杵築散策。いよいよ町並みですが、早歩きの散策だったのが少々残念でした。参加者が京都府士会の方が多かったので、見るところが違います。土塀だったり庭木だったり灯籠だったり、さすが京都の建築士。杵築の後は富貴寺に行きました。言わずと知れた国宝です。

その後豊後高田市で昼食をいただき、文殊仙寺に行きました。300段の階段はきつかったのですが、登った先にあるこの建物がすごいです。幻想的な空間でした。

エクスカージョンBコースは、時間通りに大きな問題もなく終わることができ、参加した方々には楽しんでいただけたと思います。

(山村増治 / 大分県建築士会)

## C コース

### おおい建築巡礼 ～巨匠達の名建築～

参加者...63名

Cコースは、大分の生んだ世界的建築家、磯崎新氏の建築物を中心とした大分市内の名建築を巡るコースです。当初の予想を超えた皆さんの応募があり、大型バス2台での見学となりました。雨が心配されていましたが、曇天の街を、午前中は大分県立図書館、アートプラザ(旧大分県立中央図書館)そして内井昭蔵氏設計の大分市美術館を巡りました。アートプラザでは、学芸員の説明を参加者が頷きながら真剣に聞いてくれている様子が印象的でした。

移動のバス内では、県内の磯崎新氏の現在までの建築作品や建設当時のエピソードなど、特別に作成した資料を配布して説明を



写真1 城井一号掩体壕にて(Aコース)



写真2 杵築を散策(Bコース)



写真3 富貴寺(Bコース)



写真4 文殊仙寺の参道(Bコース)

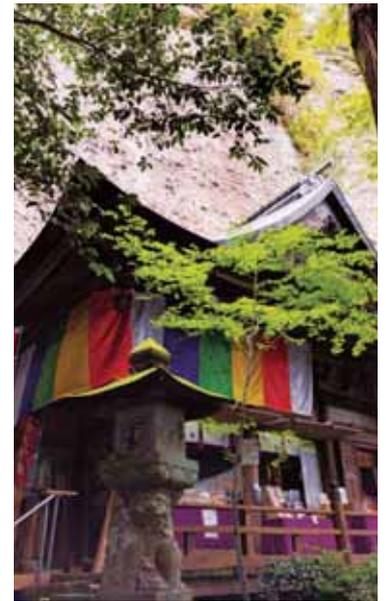


写真5 文殊仙寺(Bコース)

行いました。京都府や神奈川県建築士会の皆様から、「実務的な内容を含んでいて興味深かった」とても建築的で面白かった」などの感想をいただきました。

市内の食事処で郷土料理や海産物を堪能し、午後からは磯崎氏の初期の代表作である岩田学園の建築物群を、そして、昨年プリツカー賞を受賞した坂茂氏設計の大分県立美術館を見学しました。岩田学園事務長の辛口コメントを含んだ施設案内は面白く、随所で笑い声が起こり、参加者の反応がとてもよかったです。県立美術館では、他に類をみないガラス張りの美術館計画と、2階が吊り構造で宙に浮き、ブリッジで隣接施設に接続されている構造の大胆さに、参加者一同興味津々といった様子でした。

参加者、施設管理者、その他関係者の皆様のおかげで事故もなく無事に全行程を終了できました。ご協力心より感謝申し上げます。

(板井利世 / 大分県建築士会)



写真6 大分県立美術館にて(Cコース)

## D コース

### 別府の温泉文化と歴史遺産めぐり

参加者...25名

日本有数の温泉地、別府の温泉文化と歴史遺産を巡っていただきました。最初の見学場所、吉田鉄郎氏設計、昭和初期のRC造建築物である別府市公会堂では、歴史遺産を保存する手法・内容について見学。歴史的建造物の保存と建物自体の魅力もあり、非常に興味深く見学していただき、質問もたくさん出ました。また、本建物を設計した吉田鉄郎氏の作品が来年度、全国大会の開催都市である京都市でも2カ所存在するため、来年度への繋がりにもなったと思われます。

午前中2カ所目の見学場所は、別府駅周辺から竹瓦温泉界隈を散策する街歩き。案内役はベテランの街歩きガイドさんに務めていただき、豊富な知識と経験豊かな語り口、途中にはおやつタイムも挟み、一番の盛り上がりを見せました。

続いて、別府タワー見学へ。別府タワーは東京タワーなど多くのタワーの設計を手がけた内藤多仲氏の設計によるもの。展望フロアに残る建設当初の写真資料や別府の海から見上げる扇状地が描く景観を見学。

昼食は別府八湯のひとつ鉄輪温泉にあるひょうたん温泉で「地獄蒸し」を召し上がっていただき、別府の食文化と食後の足湯で疲れを癒していただきました。

午後からの竹細工伝統産業会館では実際に竹鈴づくりをして体験型の見学となりました。最後の見学場所、重要無形民俗文化財の明礬湯の花小屋では、薬用・美容に利用されている湯の花の製造状況の見学に加え、地獄蒸しプリンを堪能していただきショッピング、見学、体験、食など温泉の持つ魅力を総合的にお伝えすることができたのではないのでしょうか。（小山秀輝 / 大分県建築士会）

## E コース

### 静寂な山荘と湯の坪街道の秋を巡り

### 湯布院のまちづくりのビジョンを学ぶ

参加者...66名

湯布院コースは予想を上回る参加者となり、2グループに分かれての見学会となりました。まずは湯布院を代表する山荘無量塔を見学し、湯布院旅館の雰囲気味わっていただきました。その後、湯布院の田園風景と温泉の魅力が調和したまちづくりに行政と住民が協



写真7 重要無形民俗文化財の明礬湯の花小屋にてDコース



写真8 山荘無量塔を見学(Eコース)

同して取り組んできた歴史と、2008年に景観法による景観協定を結んだ湯の坪街道の広告物規制・誘導の取り組みを由布市役所職員に経緯を交えて協定整備までを直にお聞きした後、日曜日の賑わいのある湯の坪街道を実際に散策しました。

帰りのバスの中では、大分県建築士会が取り組んできた折り紙建築をご紹介します。次

回開催地である京都にちなんで平等院鳳凰堂の折り紙建築型紙を記念に差し上げました。

このコースは移動ポイントも多く、また私たちの配慮も足らずご迷惑をおかけした点多々あったかと思いますが、参加された皆様が湯布院を楽しんでいただけたのなら幸いです。

(滝石雅一 / 大分県建築士会)



# 参加人数一覽

ブロック	都道府県	参加登録	記念講演	大会式典	大交流会	同伴者	昼食	セッション											エクスカッション					
								HM	木造建築	女性	防災	福祉	街中 <small>まち</small>	青年	環境	情報	建築相談	歴史	A	B	C	D	E	
北海道	北海道	52	46	46	49	3	24	7	11	5	4	0	6	8	2	9	8	10	2	1	3	2	15	
東北	青森	38	37	37	0	0	14	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	岩手	27	8	27	0	0	4	5	3	0	0	0	1	2	0	0	0	3	0	2	0	1	0	
	宮城	51	10	36	12	2	2	2	0	3	0	0	1	0	1	0	1	3	0	5	0	0	5	
	秋田	37	4	29	14	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	
	山形	62	5	62	0	1	8	0	6	0	0	0	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	
	福島	103	42	99	8	1	2	0	7	0	1	0	3	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		318	106	290	34	8	30	7	16	3	1	0	6	18	2	6	1	12	0	7	0	1	8	
関東・甲信越	茨城	54	21	54	3	3	2	4	4	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	栃木	26	5	25	0	1	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	
	群馬	32	2	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	埼玉	54	50	51	4	0	1	5	0	0	0	0	1	0	2	3	0	1	0	0	0	0	0	
	千葉	80	27	41	9	4	5	6	5	1	5	0	1	2	4	4	8	7	4	5	5	0	15	
	東京	64	26	48	37	7	17	5	5	4	3	5	6	8	12	9	6	9	0	16	2	0	3	
	神奈川	43	21	43	26	1	14	13	3	0	5	0	1	3	0	0	0	10	0	0	10	0	2	
	新潟	37	33	36	6	1	4	2	2	0	3	0	3	9	0	2	0	1	3	0	0	0	4	
	山梨	69	0	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	長野	51	11	11	8	0	3	1	0	0	0	0	0	32	0	3	1	2	0	0	0	0	0	0
小計		510	196	391	93	17	46	38	21	5	17	5	13	54	18	21	15	35	7	21	17	0	26	
東海・北陸	富山	39	7	23	18	3	6	0	0	1	1	0	1	8	1	3	0	1	0	2	0	0	2	
	石川	76	26	74	43	4	3	7	0	0	0	0	0	6	3	4	2	12	0	0	0	0	0	
	福井	19	15	19	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	
	岐阜	35	26	35	7	0	5	6	0	2	0	2	1	5	1	1	1	4	4	2	0	0	3	
	静岡	19	0	12	2	0	0	3	0	0	0	0	0	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	
	愛知	39	23	35	4	2	11	4	0	6	0	1	0	5	1	2	0	2	0	2	2	1	0	
	三重	42	25	40	8	1	9	2	7	0	3	0	0	6	2	1	0	5	0	0	12	0	0	
小計		269	122	238	82	10	34	32	7	9	4	3	2	34	8	11	3	37	4	6	14	1	5	
近畿	滋賀	32	32	31	3	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	京都	100	68	92	81	4	30	11	22	6	3	1	1	20	12	7	6	19	0	19	6	6	8	
	大阪	62	56	62	22	3	15	6	8	3	1	2	3	6	2	5	1	6	1	0	4	3	0	
	兵庫	32	6	19	5	1	2	7	1	0	0	0	2	4	1	2	1	7	0	2	0	0	0	
	奈良	57	18	32	0	1	9	3	1	5	0	0	1	3	3	1	1	4	0	4	8	0	0	
	和歌山	83	13	83	41	0	59	1	0	0	2	1	2	9	0	1	0	45	0	0	0	0	0	
小計		366	193	319	152	12	115	28	32	14	6	4	9	43	18	16	9	81	1	25	18	9	8	
中国	鳥取	36	9	31	0	0	0	0	5	0	8	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	島根	16	15	16	6	0	2	3	1	0	1	0	1	1	0	0	0	4	0	0	0	0	3	
	岡山	21	18	21	13	1	6	10	2	0	1	0	1	2	1	3	0	3	0	2	0	0	0	
	広島	28	10	28	5	1	1	2	2	0	0	0	1	2	1	0	1	2	0	0	0	0	0	
	山口	55	50	52	32	2	5	0	6	0	0	1	0	1	1	2	0	1	0	0	0	10	0	
小計		156	102	148	56	4	14	15	16	0	10	2	3	6	3	5	1	11	0	2	0	10	3	
四国	徳島	36	0	26	4	4	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	香川	55	54	55	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	
	愛媛	115	57	115	42	2	9	26	5	1	3	0	5	13	4	25	0	7	0	0	7	0	0	
	高知	23	16	20	0	0	0	1	1	1	0	0	2	14	5	0	0	2	0	0	0	0	0	
小計		229	127	216	48	7	9	29	6	2	3	0	7	37	9	26	1	10	0	0	7	0	0	
九州	福岡	243	4	241	8	4	23	1	0	0	0	0	0	4	0	3	0	2	0	0	1	0	0	
	長崎	110	61	63	13	3	24	2	2	1	1	1	16	25	1	19	0	14	0	1	0	0	0	
	佐賀	112	45	77	22	6	11	18	6	4	3	2	7	9	9	4	0	6	1	2	0	0	0	
	熊本	100	42	100	18	1	6	10	20	0	2	0	1	5	2	3	0	18	0	2	0	0	1	
	宮崎	118	78	75	11	0	15	10	35	6	5	0	31	3	20	21	1	26	0	0	0	0	0	
	鹿児島	85	43	79	63	1	7	0	6	3	0	0	1	4	0	6	0	0	0	2	0	0	0	
	沖縄	37	36	37	6	1	33	8	10	1	5	0	11	2	11	11	2	13	0	0	0	0	0	
小計		805	309	672	141	16	119	49	79	15	16	3	67	52	43	67	3	79	1	7	1	0	1	
千木の会				17	14	2																		
大分		465	277	296	218	4	7	29	33	2	17	3	14	30	9	19	2	19	0	0	3	2	0	
連合会		53	6	52	45	0	27	1	0	0	2	2	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	
合計		3223	1484	2668	918	81	425	235	221	55	80	22	127	282	112	180	45	296	15	69	63	25	66	

# 表彰者のご紹介

## 平成28年 日本建築士会連合会賞入賞者

賞	設計者名	所属士会名	作品名
優秀賞	小幡剛也	大阪	サントリーワールドリサーチセンター
	平瀬有人	佐賀	富久千代酒造 酒蔵改修ギャラリー
	大谷弘明	大阪	灘中学校高等学校 耐震改修および増改築
	水上哲也	東京	日南市油津商店街 多世代交流モール
	篠崎 淳	東京	GATE SQUARE 小杉陣屋町( THE KAHALA 小杉陣屋町・THE RESIDENCE 小杉陣屋町 )
奨励賞	後藤道雄	沖縄	龍が昇る家
	横関正人	奈良	今井町の家
	保科 章	東京	遊行寺地藏堂
	中藤泰昭	東京	G.Itoya( 銀座・伊東屋 )
	高木研作	大阪	熊本県立熊本かがやきの森支援学校
	近藤正隆	東京	地下2階地上2階の家
	伊藤昭博	群馬	箕郷町の家

設計者名の掲載は、表彰対象者のみ

## 平成28年度 日本建築士会連合会長表彰者

氏名	士会名	氏名	士会名	氏名	士会名	氏名	士会名
岸 義雄	北海道	積田貞夫	千葉	宮本徳良	三重	藤川隆幸	徳島
三日市則昭	北海道	関口 薫	東京	小林英俊	富山	粟田 勝	徳島
中原隆二	北海道	二瓶光希	東京	山中路代	富山	合田倫和	香川
八重樫昇	北海道	金箱温春	東京	常橋 明	石川	井上喜代文	香川
富田秀彦	北海道	山本康友	東京	井波良一	石川	中 紘三	愛媛
米谷 智	青森	岸本裕子	東京	中本美栄子	滋賀	藤井周治	愛媛
木村勝康	青森	加藤健三	東京	岩村眞樹雄	京都	江口久夫	高知
及川信勝	岩手	遠藤正治	神奈川	中川市三	京都	岡部早苗	高知
岡田 稔	岩手	小澤勝美	神奈川	藤田 忍	大阪	義経眞治	福岡
千葉英司	宮城	籾 健夫	神奈川	昇 勇	大阪	大島敏秋	福岡
中村捷子	宮城	望月喜二	山梨	七堂元敏	大阪	荒木正美	福岡
赤平一雄	秋田	長田孝三	山梨	西田 清	兵庫	坂口義孝	佐賀
金沢純治	秋田	保高治紀	長野	増田 洋	兵庫	前田伸生	長崎
五十嵐庄七	山形	中村一美	長野	坪岡秀明	奈良	指山康二	長崎
安孫子文亮	山形	手塚宏之	長野	戸尾正明	奈良	丘 清哉	熊本
齋藤守司	福島	田中みちよ	新潟	日下友希	和歌山	松岡康雄	熊本
田中建雄	福島	高橋達平	新潟	嶋田和人	和歌山	富部 直	大分
長谷川正幸	茨城	中村友範	新潟	森本博美	鳥取	板井登喜雄	大分
野口克典	茨城	望月廣道	静岡	安谷潔美	鳥取	椋田康一	大分
梶ひろみ	茨城	服部 滋	愛知	三徳伸吉	島根	吉川順治	宮崎
半田久男	栃木	山口 晃	愛知	中村昌史	島根	中島喜一郎	宮崎
岩本秀雄	栃木	阿部一雄	愛知	中村陽二	岡山	濱田光隆	鹿児島
田仲 豊	群馬	近藤 円	愛知	嶋田詠子	岡山	西野正憲	鹿児島
女屋 実	群馬	大久保勲男	愛知	生田文雄	広島	中俣知大	鹿児島
藤間利一	埼玉	澤田勝美	岐阜	三好信男	広島	山川英樹	沖縄
丸岡庸一郎	埼玉	津川文江	岐阜	上田幸正	山口	中島親寛	沖縄
蒲生良隆	千葉	服部厚生	三重	高谷 修	山口		

## 平成28年度 伝統的的技能者表彰者

氏名	士会名
大室勝男	青森
伊藤重徳	宮城
金沢一美	秋田
渡部俊治	山形
山口 茂	群馬
石井正明	千葉
諸岡永長	東京
小田原健	神奈川
山田芳孝	長野
加藤敏春	新潟
鈴木岩男	愛知
根塚三起生	富山
佐田秀造	石川
村田憲一	京都
佐村木猛	大阪
朝日政秋	兵庫
山本吉治	奈良
野田 涉	和歌山
山本初雄	鳥取
室田鐵一	岡山
相原誠則	愛媛
西内孝雄	高知
江田弘禧	佐賀
前田保幸	長崎
矢野春藤	熊本
生野徹二	大分
有村 衛	鹿児島



## 第4回 全国ヘリテージマネージャー大会

テーマ

# 熊本地震による歴史的建造物の被災状況と今後の対応

大会前日に鳥取で震度6弱の地震が発生した。今後どこにでも起こりうる災害に対して、ヘリテージマネージャー(HM)はどのように対応すればいいのか。前震(2016年4月14日)および本震(4月16日)で震度7の熊本地震による被災の状況を直視するとともに、HMの事前・事後の対応を見つめ考えることをテーマに、下記の4つの事例報告がなされた。

大分県の歴史的建造物の活用と地震対応  
(日出町山荘の改修事例)

発表 三ヶ尻 勝(大分県建築士会)

1915(大正4)年頃、地元実業家の別荘として竣工した山荘について、1964(昭和39)年以降割烹料亭として活用されていること、屋根点検や白蟻の定期点検など建物の保全の状況、また、地元小学生の歴史教室、庭園での観察会の実施など、使いながら保全していくことの重要性が紹介された。



写真1 会場風景

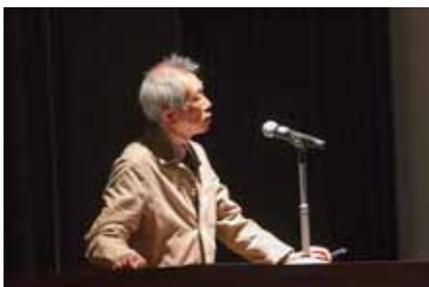


写真2 発表者の三ヶ尻 勝氏(大分県建築士会)

別府市の地震被害建築相談活動  
発表 光永 剛(大分県建築士会)

熊本地震の被災に対して、別府市が実施した被災建築相談について報告がなされた。2016年4月18日相談窓口を開設し、「地震被害を受けた住宅に戻れるかどうか」住民の不安の声に対処した。建築士会が協力し、行政と連携して被災調査が実施された。調査相談件数は240件にものぼった。

地震による歴史的建造物の被災と対応  
発表 山川満清(熊本県建築士会)

熊本地震では前震に次ぐ本震により多くの建物が倒壊した。熊本県では全壊8,195棟、半壊30,185棟に達した。指定・登録文化財や景観重要建造物が大きく被災し、未指定の貴重な歴史的建造物の被害も多大だった。これらの被災歴史的建造物の調査が2016年5月20~22日の3日間実施され、延べ117名のHMにより313件が調査された。これは2年前に締結された九州ブロックの連携協定に基づくものである。

HMの調査活動が迅速に有効に実施されたことが報告されたが、復旧のための資金の確保、未指定建造物の支援の拡充が課題としてあげられ、行政との連携と所有者とHMの信頼関係が重要であると強調された。

九州ブロック連携協定による調査の実際と展望

発表 中島孝行(福岡県建築士会)

前震の翌日、中島氏は熊本の山川氏と連絡をとり、九州ブロック連携協定に基づく被災歴史的建造物調査の実施を確認している。5月4日、山川氏と中島氏の事前協議を経て、5月13日調査実施委員会を開催し、5月20、21、22日一次調査が実施された。これらの一連の迅速な対応は、2012年から毎年、九州

ブロックで模擬訓練が行われてきたことが大きかったという。文化庁文化財ドクターの調査もHMにより6月に一次調査、10月に二次調査が実施された。歴史的建造物のリスト化の重要性、また所有者への事前・事後の対処がHMの重要な役割であると展望された。

デジタルマップによる被災状況模擬調査  
発表 津枝勝見(ひょうごヘリテージ機構)

住宅地図などの紙の地図をもとに調査票に手書きで取りまとめるという方法ではなく、デジタルマップ(インターネット上の地図サービス)を用いた被災状況調査の方法を示した報告として、会場から注目を集めた。

2日にわたって実施した模擬調査は、期待以上の有効性が確認できたという。スマートフォンやタブレットを利用することで、費用がかからず多くの人が参加して作業ができ、今後、建築学会の歴史的建築データベースとの連携、接続でさらなる広がりに期待したい。

阪神・淡路大震災のあとHMという“人”を育てることとなり、東日本大震災ではHMの“ネットワーク”が未整備だった。今回の熊本地震では、歴史的建造物の“リスト”が課題として浮き彫りにされた。人・ネットワーク・リストの3つが揃うことで平常時から非常時に備えて対応できる体制が整ったといえ、今後さらなる展開をしていこうという沢田伸協議会副委員長のまとめで閉会した。

(塩見 寛/全国HMネットワーク協議会副委員長、静岡県建築士会)

日時...平成28年10月22日(土)  
10:00~12:00

場所...別府市公会堂 大ホール

参加者...235名

## 第7回 全国建築士フォーラム in 大分

テーマ

# 「魅力ある未来社会へ」 行動しなければ何も変わらない

全国大会に集まる志を同じくする仲間とともに、われわれが今できることを模索し実践すること、情報を共有し社会に求められる建築士の輪を全国各地へ広めていくことを目的とし、その語らいの場として開催してきた全国建築士フォーラム。本フォーラムは今年で7回目となり、近年開催してきた地域実践活動報告発表会が大会当日に変更となったため、平成26年度全国青年委員長会議にて設定いただいた目標に関する成果報告とともに、近年のブロック青年建築士協議会としての取り組みを7ブロックから発表(ブロック紹介を含む)いただき、全国の青年建築士が他ブロックの取り組みを共有する場を設けました。

後半では、2016年4月に発生した熊本地震を受け、震災対応経験者を交えて近年の大地震の震災対応や建築士(会)の取り組みを参加者とともに議論する場を設けました。

### 7ブロックによる発表

#### 北海道ブロック

子どもたちに建築の魅力を伝え次世代へ「ツナげる」

#### 東北ブロック

東北ブロック大会の強化

#### 関東甲信越ブロック

一級建築士設計製図試験の「課題施設見学会」

#### 東海北陸ブロック

建築士の知識を発表できるイベント開催

#### 近畿ブロック

「近畿青年建築士サミット」開催

#### 中四国ブロック

木造住宅耐震化工事誘発モデル事業に向けての取り組み

#### 九州ブロック

パッションからつながるkizna in 鹿児島に新規会員orイベント初参加者を30名以上募る!

全国7ブロックからの成果報告では、各ブロックならではの取り組みをされており、各単会委員長が掲げた目標遂行に真摯に向き合われていました。

発表後は、震災を経験された青年建築士が登壇し、連合会青年委員長コーディネートのもと、パネルディスカッションを開催。その後、7テーブルに分かれ、「災害時、私たち建築士にできること」について、今後の生活に生かしていけるよう、また、災害時に適切に対応するためには事前の準備やシミュレーションが大切になってくると考え、テーブルディスカッションを開催しました。

いつ起こりうるかわからない災害に対する備えとして、本日のディスカッションが今後役立つことを願います。

(川嶋和之/日本建築士会連合会 青年副委員長)



写真1 北海道ブロックによる発表



写真2 パネルディスカッション



写真3 会場に集まった青年建築士たち

日時...平成28年10月21日(金)

16:30~22:00

場所...別府国際コンベンションセンター  
ビーコンプラザ B1階リハーサル室  
2階レセプションホール  
3階国際会議室

参加者...231名